校長通信　調和（ハーモニー）

発行
校長　寺島克彦
〒384-0023
小諸市東雲4-1-1
TEL 0267-22-0216

題字　渡邉虚舟

令和元年度「卒業式」

新型コロナウイルス感染防止対策として、卒業生と職員そして、生徒会正副会長のみで行った卒業式。卒業学年全員で歌うはずだった「いのちの歌」の合唱も、校歌も聴くことはできませんでしたが、卒業生の溌溂とした笑顔と、土屋生徒会長の心のこもった「送辞」、塚田前生徒会長の感謝が込められた「答辞」により、これまで以上に心に残る卒業式となりました。

また、卒業生の退場の際には、音楽科の先生方による「いのちの歌」の演奏とともに、生徒会の「三送会」で使う予定だった、生徒会役員による手作りのアーチを先生方が持って卒業生を送り出す、というサプライズもあり、いっそう思い出深いものとなりました。

卒業式を終え、四月からの新生活の準備をしている本年度卒業生の皆さんは、もう準備万端でしょうか。１・２年生の皆さんは沢山の課題にしっかりと取り組んでいるでしょうか。

限りある「高校生活の今」の時間を大切に、四月の大切なスタートに向けて、頑張れ！

「 送　辞 」

在校生代表　土屋陸希

冬の厳しい寒さも、ようやく和らぎ、春の訪れを感じることができる季節になりました。

今日、この良き日に卒業される三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

小諸高校での最後の晴れ舞台に、在校生を代表してお祝いの言葉を贈らせていただきます。

皆さんにとって小諸高校での三年間はどのようなものだったでしょうか。期待と不安で葛藤する中迎えた入学式から今日に至るまで、嬉しかったこと、楽しかったこと、辛かったこと‥‥いろいろあったと思います。

青春をかけ、日々の練習に励んだ部活動。己の限界に挑んだ強歩大会。クラスの絆、友との友情を深めたクラスマッチ。クラス全員で作り上げた文化祭でのクラス企画やハモコモ。印象に残っていることは一人一人違うとは思いますが、この三年間での全ての出来事は、皆さんのとても大切な思い出になっていることと思います。

文化祭の準備や当日の運営で、とても忙しく大変な中で盛り上げようとする先輩方の姿が、私にはとても印象的で、尊敬する姿でした。

これからは、私たちが先輩方の創り上げてくださった生徒会、学校を引き継いでいきます。

大きく育った「塚田どんぐりの木」そこから落ちた実を、私たちの手でさらに大きな木へと成長させるよう努力していきます。今まで本当にありがとうございました。

皆さんはこれからそれぞれの道を歩んで行かれることと思いますが、そこには、これまでにない困難が待ち受けていると思います。そんなときは、どんなに苦しいことがあっても、共に乗り越えてきた最高の仲間とこの三年間で培った力を最大限に発揮して乗り越えていってください。

皆さんが描いている未来に向かって歩み、「一人一人のどんぐりの木」が大きく成長することを、在校生一同、心より願っています。

皆さんのご健康と、さらなるご活躍をお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

「 答　辞 」

卒業生代表　塚田陽樹

日々、景色が春の色に染まっていく季節となり、浅間山が春の日に照らされて鮮やかに輝いています。

本日は私たち卒業生のために、このように卒業式を挙行していただきましたことに、感謝申し上げます。

本来なら、ご来賓、保護者の皆さんにご列席いただき盛大に執り行われるものですが、このような卒業式もまた、思い出に残るものではないでしょうか。

私たちは、先ほど校長先生、在校生からいただいた心温まるお言葉を胸に、今日、長野県小諸高等学校を卒業します。

期待と不安を胸に迎えた入学式から早三年が経ちます。毎日が充実していて、あっという間にこの日を迎えてしまいました。

この三年間を振り返ると、その思い出の一つひとつに、支え、支えられた自分を見つけることができました。

昨年のラグビー・ワールドカップでは、日本代表が大躍進を見せ、日本全国に、そして世界中に驚きと感動を与えました。チームが、そしてファンがワンチームとなって戦い抜きました。私たちもまた、一人ひとりが支え合い、互いに高め合う最強のワンチームであったと思います。

学年の垣根を超え、互いに励まし合った競歩大会。友人と共に力を合わせた文化祭。熱い戦いが繰り広げられたクラスマッチ。他にも行事のみならず、なにげない日々の授業や部活動では、辛い時や嬉しい時、どんな時でも支え合い、声をかけてくれる多くの仲間の存在は何物にも代え難いものになりました。

この一年間、生徒会長として、様々な行事を迎え、今までにない最高の一年にすべく、試行錯誤を繰り返してきました。厳しいことも多くありましたが、仲間と共に支え合い、全校の皆さんに協力してもらい、生徒会も充実させることができました。まさに、ワンチームで創り上げたものです。

ここ、小諸高校には、クラス、学年、男女の垣根を越えて意見を言い合え、応援し合える環境があります。そして、全校が団結した時の力は、他に勝るものはありません。これからもその力を信じて生徒会活動などに取り組み、それぞれの目標に向かって進んでください。

本来、卒業式は高校生活最後の晴れ舞台であり、今まで支えてくださった方々への感謝を伝える場でもあります。

しかし、今年はそれが叶いません。どうか、家に帰って高校三年間で成長した私たちの勇姿を、そして今日まで支え導いてくれた感謝を、どのような形であろうとも、必ず伝えてください。

私たちは今日、それぞれの夢に向かって人生の大きな一歩を踏み出そうとしています。これから向かう道は一人ひとり異なります。しかし、小諸高校での友は一生の友であり、小諸高校での思い出はどれもかけがえのない宝物です。

これから先、それぞれが歩む道の途中で、どんなに苦しいことに直面しようとも、この三年間で乗り越えてきた数々の壁を思い出せば、乗り越えられない壁などありません。

未来の自分たちに対する大きな期待と希望を胸に、日々努力を怠らず、邁進し続けます。

結びに、今日まで私たちを支えてくださった全ての皆様に改めて御礼申し上げるとともに、小諸高校の益々のご発展を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

（校庭から西を望む）